

第9回山ノ内町議会報告会実施結果報告書（西部）

日 時	平成28年1月30日（土）午後5時30分から午後7時50分まで
場 所	よませふれあいセンター
参加人数	住民参加者 54人 議員12人 事務局1人
地元協力団体	西部協議会・西部公民館
議員役割分担	<p>総括責任者 渡辺正男</p> <p>司会進行 渡辺正男</p> <p>常任委員会報告者</p> <p>総務産業常任委員会 高田佳久</p> <p>社会文教常任委員会 小林民夫</p> <p>広報常任委員会 山本光俊</p> <p>議会運営委員会 高田佳久</p> <p>総合計画審査特別委員会 布施谷裕泉</p> <p>記録者 湯本晴彦</p> <p>出席議員 小林民夫・山本光俊・湯本晴彦・布施谷裕泉・望月貞明 高山祐一・高田佳久・徳竹栄子・渡辺正男 ・小林克彦 山本良一・小渕茂昭</p>
次第(担当者)	<p>1. 開 会 司会者 渡辺正男</p> <p>2. あいさつ</p> <p>(1) 主催者 議長 小渕茂昭</p> <p>(2) 共催者代表 西部協議会長 青木春夫</p> <p>3. 報告事項</p> <p>(1) 議会常任委員会報告</p> <p>①総務産業常任委員会 高田佳久</p> <p>②社会文教常任委員会 小林民夫</p> <p>③広報常任委員会 山本光俊</p> <p>④議会運営委員会 高田佳久</p> <p>⑤総合計画審査特別委員会 布施谷裕泉</p> <p>(2) 質 疑</p> <p>4. 懇談事項</p> <p>テーマ「人口減少と持続可能な地域づくり」</p> <p>5. 閉会 司会者 渡辺正男</p>
報告事項の質疑と懇談会意見をまとめて進行	<p>質問：議員報酬の自主的カット終了とのことだが、説明では5月末に終了し、6月からは10%カットはやっていない。9月2日に全員協議会で10%カット終了が全会一致で決まっているが、決まる前にやめているのはどうしてか。</p> <p>回答：自主的カットは、条例で1年間を期限として定め、毎年3月に継続するか議論してきた。今回は改選時に議員定数の削減もあり、前任の協議で5月31</p>

日までのカットとすることを決めた。そのため、改選後に報酬の協議をすることになっていたため、9月にカットを正式に終了した。

質問：10%カットを継続しつつ、答申した時点でカットをやめた方がよかったです。

回答：カット継続と決まれば遡及適用があるため、6月まで遡って10%カット分を戻すことになっていたため、結論が出るまでは条例報酬とした。

質問：NHKでニュースにも出たが、選挙をすべきだった。なり手がいないというが、給料なんかいらぬよっていう一肌脱ぐ人が出なさいいけない。

回答：今回無投票という残念な結果となったが、定員割れしているところもある中、定員割れしなかっただけでも良かった。ぜひ選挙をやって評価を皆さんからいただいて、議員活動をすべきと思う。諮問した側として報酬については、議員定数の削減もあるため、新議員の中で検討することになっていた。カットをやめた現在の報酬は、全国の平均報酬より少ない。定数が減り負担増となるため、次期の選挙ではむしろ報酬を上げることで、手を挙げる人が増えてほしい意図もある。定数については、ベストなのかこれから検証していく。

意見

- ・20年ぶりに地獄谷に行ったが、入口の手前に10年以上前の廃車が残っている。見た目が良くないし、外国人にとっても良くない。現場を見てほしい。
- ・山火事や地震などが起こった時、消防のヘリは1トンしか水を汲めない。自衛隊は最大7トンの水を運べる。夜間瀬川では浅すぎて水が汲めないし、志賀高原の池も天候にも左右されるため、広域で貯水所を作ってはどうか。

事前にいただいた質問状

1月30日 町づくりの山ノ内町議員さんに提言

質問：観光地は今や全国にあり客寄せにどこもかしこも一苦労のようです。そういう世情の中で当地も観光地なるがゆえに、観光学園高校の誘致は？白馬村高校はすでに一部取り入れているようです。当町は取り組めるのでしょうか？

回答：白馬高校は廃校の候補に挙がったが、国際観光科を作って存続しようとしている。そもそも山ノ内町は高校がないので、高校を誘致するということになるが、昨今の高校統廃合などの問題で、現実的とは考えづらい。

人材育成としては、中野市にある中野地域職業訓練センターでおもてなし塾や観光マイスター講座があり、観光に関する人材育成を担っている。しかし近年では受講者の減少も著しいとのこと。

町では立教大学・文教大学との連携を行い大学のゼミなどを誘致している。

今後、学校誘致に関しては、将来の山ノ内町の人材育成、そして人口増加、観光振興の意味でも総務産業常任委員会の研究課題の一つとして検討していきたい。

質問：少子高齢化現象は全国的な問題でもっと早く対応を考えて進めておれば、平谷村のように良い村もあり、これはひとえに町の施政者の責任だと思います。約十数パーセントの人が妻帯がない。子供不足は当然です。平成15年ごろかと思いますが農業委員会が対応を考え始める準備をしましたが、社協に専門職員ができたということで散会になり残念でした。その時の資料が農政課に残っていたら検討をしてください。

回答：農業委員会に確認したところ、当時、配偶者対策として社協が婚活イベントを行った中で、ブルベリー狩りやそば打ち体験などで提携したとのこと。あくまでも農業委員会はその手伝いをしたという関係であった。町は婚活事業を社協に委託しているが、あまり成果は上がっていない。近年、社協では、北信6市町村での婚活イベントを行っているが、今年は須坂市も入ってイベントをやる予定。（平成27年度から須坂市・高山村も加わって実施している。）

質問：若い人たちには何としても仕事が必要で難しい時こそ現実化するために点をつけ線につながるように？箱山土砂取り跡へ工業事業の導入、また穂波平穏夜間瀬連絡道路の振興利用は？次に立派な議員さん方ですから点位は実現されると祈念しております。

回答：箱山土砂取り跡は、具体的にどこの場所をさしているのかわからないが、箱山の碎石場所に関しては中野地籍になり、現在も稼働している場所なので、何かできるかというとなかなか難しい。また、穂波平穏夜間瀬連絡道路の名称はないが、穂波大橋から上条への先線ということであれば、周辺は農振地区となっているので、開発は農振地区を外さなければできない。外すことは難しい。しかし質問の主旨となる雇用創出、町の活性化ということに関しては賛同できる。

質問：移住定住は、首都圏でやると高齢者ばかり来てもダメだと思う。出店したい人や何か事業をやりたい人を支援する方が良いと思うが。

回答：町では移住定住推進交流事業として次年度、町の魅力や移住定住の支援情報を掲載した移住ガイドブックを作成し、首都圏等で開催される移住相談、移住セミナーや移住PRイベント等に参加する予定。

また、起業支援事業や賑わいショップチャレンジ事業など若者層の起業や空き店舗の活用に対する補助も行う予定。

回答：過去、空き店舗の活用実績も数件あり、店舗改修に限度額1件250万円の補助や家賃に対する補助も出している。ふるさと回帰センターなどを経由して、店をやりたいとの話も実際にある。ただ空き家があるから来てではなく、具体的に目的を持った人に来てほしいということを示して募集をかけたきたい。

後日回答：町では、平成28年度から「移住定住推進室」を設置し、移住定住に注力していく予定です。

質問：町の長期的な財源見通しが知りたかった。大型事業がこれからあるようだが、借金をしてやるにしても、何年で返すかなどの財政見通しを示してもらえたらよかった。

回答：大型事業はこれから確かに増える。ライフラインもあるのでやらないわけにいかない。今後は、公共施設を一括で管理する公共施設等総合管理計画を作成して行く予定で、これから長期的な計画に反映される。町は有利な条件の過疎債も活用し、長期的な財政計画を立てていくが、議会としてもしっかりと監視していく。

回答：町税が減っていることを心配していると思うが、地方交付税で足りない部分は補充されている。

質問：小学校統合は長時間かけて議論してきたが、スクールバスはどうするのか、何台いるのか、経路をどうするのか、平成34年までに統合していくための建物改築や費用など、不安なことが多い。よく議論してほしい。

回答：小学校統合について議会でも議員間討議を行った。今後も財政面や立地、住民参加型の会議など、統合についての諸問題に対しては、議論していく。

質問：まち・ひと・しごと総合戦略は、誰がどのように作成して、いつごろできるのか。作成にあたり、町の将来人口の独自推計8,000人を達成していても61%に減少してしまうので、町の姿がどうなるのか、生活水準がどうになるのか、低下するのであればどう対策するのか、その辺を見えるように策定してほしい。

回答：総合戦略は行政が作成し、審議会で検討されている。まだ議会に説明はないが、広報伝言板やホームページで素案が掲載され、パブリックコメントを募集しているので、ぜひコメントを入れていただきたい。

質問：北信総合病院に関して、多額な改装をした。西部地区に分院的なものはないか。

回答：北信総合病院の分院誘致に関して、北部診療所の医師を呼ぶときに、北信総合病院に依頼した経過はある。病院側としては協力する姿勢はあるが、医師の人数が足りないということで、難しかった。

質問：町内のバス路線廃止について、2年前に山ノ内町地域公共交通計画を作ったが、その計画の効果もなく廃止という話が出ている。目標値が時代にそぐわなかったのか、それとも達成のための手段や努力が不足していたのか、そこから話し合うべきだ。大量輸送に適した公共交通がこれまでだったが、これからは小規模の小回りの利くデマンド型交通だと思うが、これまでにこういったことは検討されたか。

回答：町でアンケートを取った結果は需要があり、バス路線がないところに対して、※デマンド交通（乗合タクシー）を実施したが、ほとんど利用がなかった。今廃止を検討している路線は、民間企業が運営をしているが乗降客がいなければ、いくら公共交通といえども存続できないのが実情。町では28年度になってから地域交通システムを地域公共交通会議で検討に入るとのこと。

※デマンド交通：デマンドは「要求、要請」の意味。利用者が電話などで乗車を予約し、乗り場や行き先はエリア内なら希望できる。利用者がいなければ走る必要がなく、小型車で済むことから、経費削減やバスが走れない狭い道でも運行ができる。タクシーのような希望時間の乗車が必ずしも可能ではなく、乗り合いとなるため、すぐに目的地までいけないこともある。